



TITLE:

上海の社會狀態

AUTHOR(S):

櫻木, 俊一

---

CITATION:

櫻木, 俊一. 上海の社會狀態. 經濟論叢 1929, 29(3): 412-432

ISSUE DATE:

1929-09-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/129789>

RIGHT:

# 京都市帝國大學經濟學會 經濟叢論

第三號

第二十九卷

昭和四年九月一日發行

## 論叢

相續税の弱點

法學博士

神戸 正雄

津藩の均田策

經濟學博士

本庄 榮治郎

經濟靜學と經濟動學

文學博士

米田 庄太郎

## 說苑

我國の經費増加と物價の變動

經濟學士

小山田 小七

## 講演

上海の社會狀態

法學士

櫻木 俊一

## 雜錄

越前米浦の農民逃散

經濟學博士

黑 正 巖

獨逸<sup>に於ける</sup>交通政策研究の現況

法學士

前田 稔 靖

投資トラストに關する一考察

經濟學士

一谷 藤一郎

艦船工場に於ける職工の生活

經濟學士

芝 元 一

物價指數に關する一論

經濟學士

木村 喜一郎

マイヤー文庫

經濟學博士

沙見 三郎

近着外國經濟雜誌主要論題

講演

上海の社會狀態

櫻木俊一

櫻木俊一氏は南滿洲鐵道株式會社に勤務して大正三年以來上海にあり、大正九年よりはミユニシバル・カウンシラーとして上海の共同租界の行政に参加せられ、昨年に及んだのである。本文は、氏が京都帝國大學經濟學會に於て試みられたる講演に、更に氏が加筆せられたものである。

一

上海と云ふ所は、人間がゴタ／＼と動いて居り、其の日／＼の事の爲めに追はれ勝ちである、即ち人間がハッスリングして居りますけれども doing nothing effectively といふ結果になる所かも知れませぬ。参考書類が極めて少いので、あちらにお出になる學生諸君から上海を知る参考書がないかと云はれるのでありますが、極めて寥々たるものであります、そこで彼處で嘗て警務總長をして居つた英吉利人で今長崎に來て遊んで居りますが、——彼處で生れて幼少の時に本國へ歸つて、學業を修めましてそれから二十幾つになつてから上海に歸り警察部に入りまして、お父さんの務めて居りましたポリス・コミッショナー (Police Commissioner) に代を隔てゝ昇任した人であります——其人に對し皆て私がどうも上海は此頃のやうに世の中の動き方が激しく、さうして狀態の變

化も急速且つ激烈なる現状においては、古い所の材料、記録、統計なんかも、當面した問題を解決する参考にもならず、又端的に事が起り刹那に判斷を下さなければならぬ場合が頻出して、結局上海のことは之を直覺的に判斷して結論に到達するより外ないと云ふことを申したことがありますが、其時に同氏が云ふには、私は幸にして非常に若い時に警察の方に傭ひ入れられ茲に二十何年になつて居るが、自分の受持つて居る仕事の關する範圍に於ては幸に *Instinctively* 即ち本能的に其結論に邁進して過またぬと云ふことを申されました、是は一面に於て上海の事態を語るやうに思はれます、私の所屬は滿鐵會社であつたのであります、上海に於ては會社の仕事よりも外の仕事に多く時間を取りましたが、其時私の持つて居つた考へは、此滿蒙と云ふものは日本人の大陸に發展する上に於て、或は政治的に、其他極めて重要な地點でありますけれども、同時に此南方の經濟界の樞要點である上海に向つて十分に力を注がなくてはならぬと云ふやうな考へを持つて居つたのであります。

上海はどんな所かと申しますと、先づ之を北平と御比較下さると大凡分かると思ひます、北平は北方に於ける最も大きい都會であります、是は古い方を代表するものと思ひます、上海は新しい方を代表する所のものである、東西の文明の接觸地點、列國人との利害の衝突若くは融合する地點は上海方面に於て遙かに緊切に起るやうに思はれるのであります、北平は例へば運輸機關で申しますと、今日張家口からの汽車は何時に着くか、奉天からの列車は何時に着くか、漢口からのお客は何時に来るだらふ、天津から来る友達は何時に着くだらふと云ふ様な具合に頭を使ひますが、上海では歐羅巴から来る友達は何時着く、亞米利加から来る友達は何時着くだらう、オーストラリアからの贈物は何時着くだらふと云ふことに頭を使ふことになりました、又 *Hinterland* (背後地)の上から云ひましても、北平と上海は大分違ひがあります、人口二百三四十萬でありませうが、是は彼處で働いて居る所の人間の力は多少貢獻して居りませうが、多くは周圍の天然の力であると思ふのであります、揚子江流域

と云ふものを後ろの方に控えまして、其流域の周圍には二億以上の人が住んで居ると云ふ譯であります。

それで六百哩上流なる漢口の方に一萬噸の船も、夏分は通ふ、冬分でも四五千噸の船が樂に通ふし、上海より千哩も遡つて宜昌の方まで三四千噸の船が通ふのであります、中々 *Interland* が大きい、それでありますから若し支那と云ふ國が平穩無事に相成りまして、經濟的發展に向つて何等の障害を受けずに進み得る狀況になりましたならば、あの上海の町の大きくなることは一層偉大なるものであらふと思ふのであります。

それから上海と西洋の町と比較致しますと、最もよく *Comparison* をなすものは紐育であると思ひます、北平とは *Contrast* である、紐育は *Comparison* と云ふ言葉が當嵌まるだらふと思ひます、是は私共の考へばかりでありませぬ、歐米人などに於きましては何れも上海は東洋の紐育であると云ふことを言つて居ります、其規模に於きましては非常な差があるけれども、一般の町の感じと云ふものは紐育と非常に能く似て居るのであります、流れに沿うて町が出来て居る、紐育はハドソン河、上海は黃浦江の脇に在る、それからして紐育の方に於ても各國の人が住んで居るのであります、之を *Cosmopolitan-city* と申しますが、此言葉が上海に當嵌まるのであります、上海には三十何ヶ國の人が住んで居ります、尤も在留人口の極めて少い國民及び人種もありますが、兎に角幾多の人種、幾多の國民が彼處に住んで居ると云ふやうな譯であります、全體の感じと云ふものは紐育と餘程似て居ります、さうして町は動的である、北平の靜的に對して、上海の動的の點は餘程紐育と似て居るのであります、けれども亦茲に非常なる相違點がある、それは何であるかと云ふと、紐育に於きましては幾ら列國の人が澤山居りまして政治、行政上の實權を握つて居るのは亞米利加人であります、他の國の人々と云ふものは、自分の營業、自分の商業なり工業なりに従事するだけであつて、此參政權、行政上に向つて參加すると云ふことはして居らぬのであります、所が上海に於きましては、此外國の人に發言權がある、政治上其他に對して中

々確然たる地位と實權とを占めて居ります、是が大いなる相異であります。

それで上海の人口は二百三四十萬と申しましたが、是は上海には統計がございませぬ、何等依據するに足る所の統計材料がござりませぬ、上海の大いなる構成分子であります所の共同租界に於きまして、或る時に Census を致しました、其時に八十何萬と云ふ數が出たのであります、所が私共此所謂共同租界の役所 Municipal Council に於きまして、人口を基礎として割出さなければならぬ問題が出來まして、此八十何萬と云ふものは當てに成らない、當時小舟に乗つて居る者若くは横丁の横丁に住んで居る者などは何等戸籍があるでなし、警察で調べても警察力は不十分でありますが故に、到底之を標準とすることが出來ない、少くとも之に五割を加へなければならぬと云ふことを申しましたが、他の同僚の方も異口同音に賛成したやうな次第であります、極めて學問的に申しまして大難題なものであるのであります、そこで上海と云ふ所は結局先程申しました通りに、常識其他に於て判斷してかゝるより外仕様がなないと云ふ現況にある譯であります。

## 二

上海は私の参りましたのが大正三年であります、其時と今日と較べますと云ふと、社會狀態或は經濟狀態或は構成して居る所の各國勢力の消長其他に於きまして非常なる變化を來して居るのであります、其當時に於きましては、上海と云ふものは極めてデモクラチックな、極めて平和的な町であつたのであります、郊外を馬車に乗つて行く暢氣さ加減と云ふものは、一寸外では見られぬ有様でありました、所が今日は外に出ると云ふことは、場合に依つたら餘程警戒しなければならぬと云ふ狀態を度々醸して居るのであります、そこで上海の根本的理想は那邊にあるべきかと云ふことを私共が考へたことがあります。

私共は上海の理想はどこ迄も Cosmopolitan の位置を失はないやうにしたいものだと思ふ、さうして各國人が

大いに共同して、東洋のあの天地に於て、新しい文明なり運命なりを開拓すると云ふことを目的として進むべく、所謂 *international* に進むべき場所であると考へるのであります、それからして軍事的其他の活動の地としないのであります、是はどこ迄も工業及商業所謂 *Industry* の爲めに立たなければならぬ町であるやうに思ふのであります、同時に *democratic* でありまして、各國人共成べく平等の見解の下に立つて、さうして仕事をして行く、一種ゆとりのある狭苦しくない氣持を以て進むべきであると思ひます、只どうしても資本主義的に進むと云ふことは免れない情勢であらふと思ひます、彼處に澤山の資本を投下し得るかどうかと云ふことに依つて上海の將來の發展の程度は決まつて来るやうに考へられるのであります、そこで之を言葉で申しますると小規模における一種の國際聯盟と云ふやうな意味合になりはしないかと思ひます、成べく私共はあちらに居る間、我が日本人は少くも表向きに於きましては十分に *international* の *mind* を *cultivate* するやうにしたいと云ふやうな感じを持つて町の人に接して居つたのであります、所が爰十何年の間日本は常にひどい目に逢ひづめであつたのであります、併し其苦しい經驗にも拘はらず又この體験により、此私共の理想として居りました方に我同胞は一步づゝ近付いて居るやうに思はれる譯であります、吾々日本人は彼處に居りまして、日本の國と云ふものを決して忘れざるやうに、日本の國の地位と云ふことを忘れざると共に、一方に於ては國際心の養成、此兩面に向つて進まなければならぬと云ふことに監督して居つたのであります、日本人は彼處に於て國家を忘れたならば、假令日本人の財力は非常に殖え、人口が増しましても決して大きい貢獻を *International city* に於て發展することが出来ないと思ふ實感を持つて居つたのであります。

彼處に於きましては今日では日本の立派な料理屋もあります、日本料理も十分に戴くことが出来ます、同時に歐羅巴の旨い料理も食へる、支那料理も北京料理、福建の料理、廣東の料理、各種の料理も彼處に於て食へる、

さう云ふ所から言うと中と面白い、今日は伊太利の音楽家も来る、或は英吉利の催物もある、又日本流の催しがある、殊に日本の天長節に於きましては彼地に居る日本人の最大の年中行事でありまして、二萬五六千の人間は半分以上天長節に必ず参加し大いにお祝ひいたす次第であります、さう云ふ譯で大變面白い、又英吉利の *May Day* や亞米利加の *Independence Day* 等も盛んに行はれますが、これ等は、彼處に於て列國人の自尊心及びその間の競争が如何に猛烈であるかと云ふことを闡明して居る譯であります、各國の利害は必ずしも一致いたしません、衝突も致します。

極く卑近の例を引きますと、あの港の棧橋をどうするかと云ふことに付きまして各國の權威ある先覺の方々七名のお集りを願ひまして、さうして根本的研究のために御討議を願つたことがあります、日本から廣井勇先生がお出になつたのですが、上海の港に一つ共同の *Public-wharf* を設けやうと云ふことが案となりました、即ち郵船、商船或は *P.O.* などと云ふやうに銘々に、會社なり倉庫會社が棧橋を持つて居りますけれども、一つ *Public-wharf* を設けなければならぬと云ふ説が出たのであります、この案にイの一番に賛成したのは亞米利加であります、それは亞米利加はずつと上流の船の運轉にむづかしい上海の反對の方に棧橋を一つ持つて居るだけであるから、*Public-wharf* が出来たならば亞米利加が一番旨い事をするのである、所が英吉利はさう云ふものが出来ると自分の方の商賣に關する、日本も之に類似して居る、故に是等の國々は反對を致しました、さう云ふことで中々思ふやうに進行しないと云ふ譯合であります、それで此上海と云ふ所は一つの國際聯盟であつて、事實上に於きまして世界の他の部分のことが彼處に *reflect* して来る。

私が彼處の共同租界の行政に参加致しましたのは大正九年からであります、其時分の英吉利人の態度と、其後五六年經つてからの英吉利人の態度を比較しますると、雲泥の差があります、是迄永年の間かゝつて上海が出



來ましたる其傳統の結果に向つて疑問を挾めば別箇の問題でありますが、然らざる限り英吉利人は大體に於て公平な態度を執つたものであります、驚くべき程感心すべき態度に出た人があります、所が其後時の経過に連れ英吉利人は自己本位になつて、英吉利本位と云ふことが大分濃厚に現はれて來て居ります、是は何の爲めかと云ふと、登場役者が下落したと云ふことも、是も多少の原因であるが、もつと大なる原因は、英吉利本國の力の衰弱のために、狀況を目前の利害の打算より判斷し正論に向つて堂々と邁進し得ざる同情すべき態度に自覺的に若くは無自覺に出づるやうになつたのであらうと信じます。

例へば印度に於きまして、ガンヂーなどの運動が起りますと彼處に居ります印度人の行動に關係して來るのであります、Municipal Councilに巡查に備はれて居る者に印度人七八百名が居ります、或る時警務總長が印度人に對して布告を出しました、其布告に「此租界と云ふものは international の國際租界である、即ち亞米利加、スペイン、佛蘭西、伊太利など四つばかり並べて五番目に Japanese and British 等々から成立つて居る租界であるから善く注意して行動するやうに」といふ文句がありました、此簡單な文字に深長なる意味があると思ひます、亞米利加は支那に於て非常に受けがよい、一番利害關係のあるのは日本か英吉利である、所が亞米利加を先きに持つて行つて、利害關係のない伊太利、スペインを持つて來て其後に日本を付けるのは何であるか、今日、日本人に對する印度人の注意を強く喚起したくないといふ考へに出發してゐるためと考へます、斯う云ふ所に英吉利人は甚だ苦心して居る譯であります、さうして世界の他の部分の事が總て彼處に纏いて來るのであります、私が Municipal Council に候補に立ちましたのは七回であります、所が印度人の投票は殆ど全部私に入つて居るのであります、是は私が偉いと云ふ譯でありませぬ、是は矢張此東洋人の色の關係から來て居るのであります、そこで私は彼處の印度人の中で一番の勢力家であります某商店主に對し、一度親しく逢ふて親しく御禮を言はふ

かと思ふて先方へ人を以て通じましたが、切角ですがそれは何卒お控へ願ひ度い、お心持はよく分つて居る、若し來られると云ふことが英國人に分ると英吉利の壓迫がひどくなりますからと云ふことでありましたので、私は參つたことがないのでありますが、印度人の投票が殆んど全部日本人の私に入つて居ると云ふ事實は争はれぬ結果と思ひます。

そこで米國人と云ふものは洵に仕合せな立場にあります、米國人は日本や英吉利が支那に對すると異なりまして、非常に都合の好いことは、領土その他固定的の利害關係が少ない、即ち貿易及び投資以外に關係が乏しいといふことが、有力なる原因の一つと思はれますが、同時に亞米利加人と支那人とどこか心持の通うて居る所がある、亞米利加人が中國の者に向つて *You and we are two great republics in the world* と云ふやうなことを白々しく言葉にのせたりして、中國の人間も氣持が悪くないと云ふやうな關係になつてゐます、之に對し日本人も兎に角段々勢力を伸ばしつゝある、如何なる障害があつても日本の力は伸びつゝあるのであります、此伸びる力を以て支那人と提携しなければならぬ、併ながら彼處に於ける日本人の力が總ての方面に伸びるには、結局本國の實力の増進による外ないのであります、日本の本國の力が伸びなければあの土地に於ても力を伸ばすことが出來ないのであります。

### 三

そこで少しく上海の行政狀態のお話を致しますが、是は私が最も密接に關係致しまして、又私の大部分の努力を投じた所であります。

上海は共同租界、佛蘭西租界、支那人街と三つに分れ、支那街はこの外國租界を包圍して居るのであります、上海に於て一番力あるものは共同租界であります、是は富の力も一番多い、それから人材も比較的多い、是は争

はれませぬ、總ての點から申しまして力がありますから、事實上海全部に向つての Influence が強く及ぶと云ふ譯であります、そこに選まれて行政に當る者が各國人が九人居ります、私共の時に於ては英吉利人が六名、亞米利加人が二名、日本人が一名であつたのであります、尤も此九名の人と云ふものは支那人を除きます他の列國の人からして選まれるのであります、選舉の仕方と云ふものは極めて古いやり方で、連記制を採り、さうして一定の納稅額によつて選舉權が定まる譯であります、英吉利人が多數を占めてゐるのは、千八百四十三年即ち上海が開港されて以來、英吉利人が大なる努力を拂つて來た歴史上の賜物と見なければならぬ、十七八年前は九名が九名共英吉利人であつたのであります、上海の此 Municipal Council と云ふものは、日本の市役所と同じやうなものであります、市役所に加ふるに警察權を有し、又義勇隊を持つて居りまして此町を戰時狀態に移すことが出來ます、凡ての事柄は此九名の合議に依つてやり、別に市長と云ふものを設けて無いのであります、常置の吏員は隨分澤山居りまして、私の務めて居りました時分にも歐米人だけでも一千名以上居りました、兎に角さう云ふ譯で九名と云ふものはあの土地に於ては相當の權威を有つて居る譯であります。

所が其選舉に於て日本人がクッタ一人である、日本人がどうしてそれに參加することが出來たかと云ふと、大正三年の對獨宣戰の結果であります、それまでは英吉利人が七名に亞米利加人が一名、それから獨逸人が一名であつたのであります、大正四年の選舉に於きまして獨逸人は當選を致しませぬ、露西亞人が立ちまして、結局日露のどちらが九人の中の一人になるかと云ふことになつたのであります、日本の方に於きましては十分な準備も其時ありませなかつた結果、不幸にして日本の候補者は選ばれなかつた、けれども其年に英吉利人の一人が本國に歸りましたが、彼處に於ては三ヶ月以上の缺席を許さないか、辭職のほかはないのであります、所が年内に三人までの缺員の生ずる場合は残つて居るカウンシラー即ち行政委員が補充すべき人間を勝手に決めることが出

來ると云ふ規定でありましたので、其補缺として日本人が入つたのであります、それからして日本人が其後一度も失敗なく、場合に依つては最高點を以て當選して居ります、そうして一昨年の春から幸に二人になりました、私は以前から有力なる英米人から「日本は一人で満足して居るか」と云ふ問ひを度々受けましたが、私は端的に答へて、「日本は満足して居りませぬ、日本は二人なり三人なり出す資格があると信じて居る、併ながら此租界と云ふものはどの國の努力に依つて今日の隆盛を得て居るか、育て上げた國はどこであるか、過去の歴史に敬意を表し又自から來たるべき時機がある」と云ふことを申して居りましたが、其後一昨年三月の選舉に於きまして二人候補に立てまして二人共當選すると云ふことになつた次第であります、所が支那の方はどうであるか、上海の全體の人口は前に申上げた如く二百三四十萬であつて、其中の九割七分と云ふものは中國の人である、外國の人は五萬人位しか居らぬ、其半分は日本人である、さうして英吉利人と云ふものは八千人位なものである、亞米利加人は三千五百人位であります、所が此三千五百人の亞米利加人、二萬五六千の日本人、八千人の英吉利人の力と云ふものは、此二百何十萬の中國の人と對立することが出来る狀況であります、是は中國の方の人から見ますと甚だ遺憾であり、吾々として或る點迄同情を表するのであります、爲に一昨年四月から支那人の方が三名加はるやうになりました、今日に於きましてカウンシルは十二名になりましたが、是は中々迂餘曲折を経たる結果であります。

上海が開港せられて稍々役所らしいものが出來た迄は十年、十五年かゝつて居りますが、其中國人は長髮賊の戦争の時に大分此租界に流れ込んで居ります、其支那人に參政權を與へるか與へないかと云ふことが問題でありましたが、遂に與へざることになりました、所が只今より二三十年前に其問題がぼつ／＼起つて來たのであります、中國人の側の要求は、「今日税金を納めて居る以上は行政上に向つても發言權を有すべきであると云ふのは現

代主義である、所が租界に於て中華國民は他の外國人と同じやうに納税をして居るのである、そこで吾々も參政權を得なければならぬ」と云ふのである、所が英吉利人等はどうか云ふ態度を取つたかと云ふと、「此所は租界であつて各國人の居住、營業の爲めに貸與へられたる所の土地である、そこで貸與へられたる以上と云ふものは、總ての權利が、其期間は各國人の手に有るべき筈であつて、此中國民をして之に居住し營業せしめるのは各國人の恩恵即ち Act of Favour, Act of Grace である」との主張に立脚し兩々相對立して居つたのでありますけれども、之に向つて刺戟を與へ劃期的となりましたのはベルサイユ會議であります、それからもう一つの事件は、大正十四年の彼の五卅事件であります、是は英吉利と支那の關係を見る上に於ては、全く epoch-making の事件にして數十年來嘗てあらざる意義ある出來事と思はれます、事件は一道路において何等の豫備行爲もなく端的に起つたのであります、それが重大なる所の問題となつたのであります、それからして此中國人の叫び聲と云ふものも大分激烈になつて來た、英吉利人も大分讓歩しなければならぬことになつた、それから列國の間に協調がないと云ふことも其誘因である、さう云ふことから中國人の要求を容れなければならぬことになつたのであります、此支那人の要求に向つて英吉利人は中々聞きはしないから先づ三人にして居いて、後の問題は後にしたらどうですかと云ふことを、私は忠告したことがあります、即ち支那の側から選舉して來られる三名を各國人は Appointment に依つて、三名を選び、就任した時に同一の權利と云ふことに依つて、一昨年からやつて居るやうな譯であります、洵に是は時代の流れと云ふことを看る上に於きまして一つの象徴となることと考へる譯であります。

## 四

次に、日本人の勢力はもう少し上海に伸びなくちやならぬ、中國人から何と排斥されましたも、本當に支那人

を理解する可能性を有つて居るのは日本人だから、どうしても日本人の勢力が伸びなくてはならぬのでありますが、マダ上海に於て思ふ所まで行きませぬ、是については、次の三つの原因があると思ひます。

第一には日本人は國際的のことに共鳴の仕方がこれ迄足らなかつた、此十年來變つて居りますが、それまでは餘り外國人のする事に同情したり、共鳴することがなかつたのであります、例へば外國人の音樂會がある、所が日本人が外國人の音樂を聴いても分らぬけれども、一つ聴かうと云つて共鳴すると云ふやうなことが必要であるがそれがなかつた、それが無ければ自から日本人を孤立にさせると云ふ傾きを持つて居る、丁度私が上海の居留民國を扱つて居る時、或る高貴の方が佛蘭西にお出になる時にお立寄りになりましたので申上げたことがあつた、日本人社會の運動も大分盛んになつて参りました、日本人だけでゴルフや野球などをやるグラウンドを設ける計畫がある」と云ふことを申上げましたが、「それは結構な話だ、けれども其半分なり三分の一なりを外國人側に寄附して、さうして向ふと一緒に楽しむことが出来ませぬか」と言はれましたが、是は實に大切な心掛でありまして、私は答へて是は中國民ばかりでなく他の列強が餘り良い感じを有つて居らぬその當時において、この尊き趣旨の實現が可能なりや否やについて疑問を有つて居りますが、併ながら御趣旨に於きましては全然同感でありますから、其委員に申傳へてお言葉を實現するやうに致します、出来ない場合はマツチその他の方法に於て連絡を取つて御言葉に近いやうな處置を取りたいと云ふ御返事を申上げたことがあります、在外同胞の大いに留意しなければならぬ點と思ひまして、誠に感佩したのであります、英國人八千人の中から六七百人が義勇隊として出て居ります、日本人は一個中隊百四十四人、それを揃えるにも中々容易ではない、日本人幹部に於きまして少なからぬ努力をしましたが中々之を持続することがむづかしい、平生に於て日本人が斯う云ふことに盡し方が足りませぬ、皆義勇隊でございまして、會社、商店其他に働いて居る方が一日の仕事を終つてから土曜日の四

時半とか五時に集まつて、それから練習をするのである、演習季節の日曜日には朝から射的などに出る、又行軍をする、場合に依つては第一線に立たなければならぬと云ふので勧めましても日本人はどうも出ない、是は餘程深刻に考へなければならぬと思ひます、それで此義勇隊長には良い人を持つて行かなければならぬと云ふので、其當時上海に駐在の重役で豫備將校でありました人を隊長に就任して貰つたならば青年諸氏も奮起するであらうといふので頼み快諾を得て、居留民一同が大分感謝したことがあります、斯くの如く大いに苦心するけれども、其數を維持することが難かしく、英吉利人はそれが割合樂である、英吉利の某氏は豫備陸軍少將でありましたが、少佐の資格に成り下つて砲兵隊を率ゐたこともある、斯くの如きは一寸日本人には出来ないことであります、英吉利人は會社員が中尉の資格で、支配人が一兵卒である、支配人が店員に向つて敬禮をしなければならぬと云ふことになるのでありますが、斯う云ふ事は英吉利人は一向平氣である、是は或る點まで日本人が學ばなければならぬことであると思ひます。

第二に日本人の彼處の在留期間が短かいと云ふことが伸び難いことの原因であります、土地を食ひ抜くと云ふ爲めには相當の年月が要る、彼處に居る中國民は、例へば廣東で生れやうが、北平から來やうが土地に對する親しみが濃烈であり理解が徹底する又英吉利人は随分長く居る、所が日本人はさうぢやありません、轉勤を以て榮轉と心得える昔からの傳統的の思想が日本人にあります、是は一寸外國に於て日本人が力を伸ばします上に於て一つの障害になるやうであります、當時の英吉利の總領事に「貴方は支那に來られまして何年になりました」と聞きますと、「丁度來ましてから四十一年になります」といふ返事でありました、所が其時の當時の日本の總領事はマダ生れても居られなかつたと云ふのです、大分英吉利人はさう云ふ點に根氣がよいのであります。

第三に日本人の態度が大體支那其他に對しまして主觀的でありまして、自分の方の立脚點からものを判斷致し

まして、第三者となつて物を観る。相手方の心に入つて物を観ると云ふことが、日本人の足らぬ所のやうに思はれる、是は列國人とも大體同じで、たゞ程度の差でありませう、特に日本人は注意しなければならぬ點だと思ひます、或る時に一人の西洋人が「どうも日本人は何時の場合に於ても『日本若くは日本人第一主義』で甚だ困る」と云ひますから、そこで私は申しました、「それは英吉利人も佛蘭西人も亞米利加人も同一でお互様と申すの外はない、併ながら是は日本の歴史即ち長歲月の封建制度を脱して程遠からぬ事實を考へて下されば今日日本人が是迄に進んだ理由に付ては、寧ろ賞讃の言葉を、貴方がたのやうな東洋通の方々から戴きたい」と云ひまして、笑つて仕舞つたことがあります、大體に於て日本人は主觀的に傾くやうであります、是は政治の上に於ても現はれて來て、飛んだ失敗を來しますから餘程注意しなければならぬことだらうと思ひます、斯う云ふことがあります、一昨々年です、上海の居留民に付て或る問題が起りました、Municipal Council は、道路、警察、教育總てをやるのでありますが、その學校教育は全部英吉利流の教育であります、それで日本人には大いに困ることがある、彼處の學校を卒業して、英吉利のケンブリッジにでも行くとか——事實ケンブリッジと連絡は取れて居りますが——或ひは上海において事業をする場合には或は差支へは尠いかも知れませぬが、中々さうまゐりかねる場合が多い、日本から轉勤する者の子弟が英語の關係で相當學級へ入學は出来ない上海から内地へ轉住する子弟の學校關係も同様であります又根本を言へば、日本人には日本人の教育が根本的に必要であります、それで日本人は日本流の學校を持たなくちゃならぬ、亞米利加人すら自分の學校を持ち、佛蘭西人は佛蘭西人の學校を持つて居る、斯う云ふ状態であります、或る場合に斯う云ふ問題が起つたのです、日本の居留民團では御承知の如く此學校の經營と云ふことが、民團の仕事の中で一番重なることになつて居る、所が中々經費が要る、そこで居留民團の民會において民會議員三名を委員に選んで、將來の學校經費支辨方法の研究を委託したことがあります、其



委員三名からして Council の方に向つて請願書が出たのであります、是は私も全く知らずに居つたのであります、所が其手紙に「今日日本人は子供の教育に向つて非常な難儀をして居る、金が要る、容易ならぬ努力して居る、日本人の教育をすると云ふことは即ち上海全體がよくなることでありますから、此 Council から或る補助金を居留民團の方に年々無條件に呉れるやうに」との請願でありました、それから二三日經つての會議の議題となりましたが、一人の英吉利人が申すには「此吾々のカウンスルの學校は總ての國民に向つて開放してゐるのである、それから今日迄 National School と云ふものに補助金を與へた先例がないのである、是は即ち從來の方針から非常なる所の *departure* を意味するから、御辭退したらどうか」、又他の英人は「日本の學校に之を許すことに相成つたならば、他の國から申込んで來た時に皆與へなければならぬことになつて來る、さうすると Municipal Council の財政の上から非常に困ることである」と強く主張しました、それで私は、「私自身は未だ結論に到達して居らぬから斷定的な意見を言ひ得ないが今の意見につき批判を加ふるならば傳統的政策といふものは必ずしも現代の時勢に適合するものとは思はれぬ、從來やつて來たことが時代の變化に伴はぬことがある。當面の學校問題について考ふるに七八十年前からやつて來て居るといふのみの理由で傳統的政策を固持することが賢明なりや否やについては大いに研究の餘地がある、それから財政上の問題であるが、學校經營に付いては相當莫大な金が必要のものである、ところが亞米利加人が佛蘭西租界に學校を持つて居るからは共同租界の方の問題にならないのである、共同租界に學校を拵へる國民はどこかと云ふと人口の上から見て露西亞位なものであらうと思ふ、小國では到底學校の維持は出來ない、それであるから事實上において補助問題といふものは財政上大したものでない、千萬テール以上の豫算を有つて居る所で是が出せないと云ふことは一寸妙であると思ふ、併しマダ私は結論に到達して居らぬから」と申しました、それで票決は追つて研究の上といふことになりました、其後私は總領事及び居

留民團長に「斯う云ふ請願が出たが、日本人幹部の意見は決定して居るのか」と云うたら、其三人はどうしたら宜いかと云ふ研究委員であつて実行委員ではない、又その案は行政委員會の決議も民會の決議も經て居ないのとこゝとでありました、私が會議の席上結論に到達して居らぬと申したのはこの日本人の内輪の事について疑惑を持つて居つたからであります、そこで總領事初め日本人幹部の集合を促し意見の統一を要求しました、ところが日本人の意見は補助金を受くべきや受けざるべきやの根本についても纏まつたところはなかつたのであります、ところが今日日本人の主觀的であるといふことについての實證はこの請願書中に出て居ります無條件といふ言葉についてあります、共同租界の方では無條件は絶體に出来ない、所か日本人の中には強くこの無條件といふことを主張する人があり「何故日本人を信用せぬのか」と力説したのである、併し私はこれに答へて此 Council の金は皆税金から成立つて居る、それを寄附行爲ならば知らぬことであるが、寄附行爲に非ざる以上或る程度の監督權を持たなければならぬ、然しながら National School と云ふものを認めて居るから決して教育の内容迄立入りはしない、又監督は日本の文部省の督學官を招聘して學校の成績を見て頂くとも一部の人は無條件補助を兩辭するといふ状態で中々議論が纏まらぬ、然るに結局外國人側においては無條件といふ條件を除外して日本の請願を承諾すると云ふことになつたに拘はらず邦人側の議論が衆論百川歸結を見ずして請願の取下げといふことになつたのである、でこれを要約すれば補助金が公金の支出たる以上、或る程度の監督權の行使は當然又自明の事なるに拘はらず邦人の一部には「日本人を信用せぬか」といふ單純なる理論を兩持して何等の妥協をも爲さず文部省監督官といへどもカウンスルの依頼を受けその呼吸のかゝりたる以上承認出来ぬといふが如きは國際場裡においては通用出来ぬ議論であつて、同時に日本人の主觀的氣分の赤裸々に現はれた一例證と信するのであります。

## 五

すつと巾上げた所でお分りになるだらふと思ひますが、上海では常識が一番の根本になつて居るのであります。

す、法規と云ふものは餘り備はらず、先例は始終動き、結局常識本位と云ふことになつて來て居るやうな譯であるのであります、それから中々其英吉利人なんかは割合に常識がよく出來て居る、彼の土地に於きまして大學の教育を受けたものから申しますと日本人が一番多いのであります、私共の居つた時に於きましても百六十人ばかり日本の大學卒業生が居つた、英吉利人は到底それだけ無いのであります、亞米利加人も同様であるのであります、其比較的低い教育のみ受けて居る英吉利人、米國人が兎も角にも仕事を相當の成績を以てやつて行くと云ふことに付きましては、矢張り或る程度の常識が出來て居る結果と思ひます、常識と此學問と十分クツ付きませんでしたらば、所謂鬼に金棒だと思はれる譯であります。

そこで斯う云ふ一つの例を挙げますと、或る選舉の場合でありましたが、私は途中で或る英吉利人に會ひまして、相當大きな英吉利の會社の支配人をして居つた人であります、今後君の方から候補者に誰々立つのかと言つたら、中々候補難だ、貴方立つたらどうかと云うたら、私は迎も忙がしくてあの重責に當ることが出來ない、それでは誰某は如何と云つたら、あれはいかぬ、あの人は自分の仕事は知つて居るが世間を知つて居らぬ、He doesn't know the world と申しました、此感じが英吉利人にあるのであります、世間を知つて居ると云ふことは、結局常識と云ふことになりはせぬかと思ひます、それで此常識と云ふことが英、米人が非常に重きを置く、それから年と云ふものに對する關係を非常に重きを置いて居るのであります、是は米國人の例であります、或る年に米國人二人が候補に立つ時に、罷める人が後任として某氏を推薦して公文を我々に寄越しました、その人は現代的智識に富み、公共事業に熱心であるシロ／＼な點から見ても最も資格ある亞米利加人であると云ふことでありましたが、所が會議の席になりまして、も一人の亞米利加人がイの一番に反對致しまして、どう言つたかと云ふと、それは此人は此推薦狀にある通りに立派な人であるけれども、一つ缺點がある、それは何かと云ふと、彼の上海在留、在住僅かに一年半である、土地の事情を知らぬ、是が缺點であると云ふ、それぢややれぬから他の人

を選択するやうにと云ふので、其人は捨てることになつたのでありますが、是は矢張頭の明敏ばかりではないかぬ、土地の事情に精通して居らぬと云ふことを、非常に亞米利加人、英吉利人が重きを置くと云ふことの例證になることと思ひます。

それから私共向ふでやつて居りました間に非常に感心しましたことは、時間の觀念が正確であることで、私は足掛け八年やつて居る間に隨分澤山の會議に出ましたが、一週二度、三度の會議でありまして、それに殆ど定刻より遅れたことがないのであります、或る場合に七分遅れました、それは財政委員會の日でありまして、委員はタツタ三人でありまして一人が後れました、是は役所の總務部長と仕事の相談をいたして居りまして、話が切れなくて遅れたと云ふのであります、來て直ぐ詫びられました、大抵定刻より一分位早く始まる場合も少くありません、皆仕事を持つて居つて多忙でありますから、そういう結果を見るのでありませう、或る時十二月三十日に明日中に決めて置きたいことがありますから、今日夕方お集りを願ひたい、午後四時と云ふことに後で知らせが來ました、四時の定刻に九人の内インフルエンザで臥床せる一人の外は年末にも拘はらず、きちつと揃ひました、さう云ふ状態でありまして、他にお互の迷惑をかけぬと云ふやうなことから努めて居るのであります、常識本位と云ふことのもう一つの例を申しますと、カウンシルで停年制を設けました時、一人の西洋人から請願書がありまして「自分は六十一歳になる、カウンシルには三十餘年奉公してゐるがこれまでの待遇で多額の貯金のない事はお察しがつきませう、西洋人は三年を一期といたしますが今一期繼任出來ましたならば、子供の教育も一段落を告げ大いに仕合はせである、今の任務ならばこれから二十年位は大丈夫と信ずるから特別の考慮を」と英國人一流の赤襟なる申出でがありまして、カウンシルは僅か數分の討議のみにて之を承諾しました、かやうな譯で凡て常識が根本になつて居ります。

## 六

最後に日本と支那、即ち中國との外交關係でございますが、是は甚だ遺憾な状態にあるのであります、明治四十年以來、日本は大體にて此中國との關係が面白く行つて居らぬのであります、所が中國の方の理解ある方々と、日本人の或る方面では能く手を結んで居りますけれども、全般の調子に於て甚だ遺憾の點が多いのであります、辰丸事件、安奉線事件、それから大正四年、大正八年、大正十年と云ふやうな譯で、ずつと此排日の仕通しであるのであります、それで之に向ひましては、私共から遠慮なく申しますと、此中國の方々に向つても徹底したる所の反省を求めなければならぬ問題があるのであります、同時に我が日本人に於きまして、どこ迄も一つ顧みなければならぬ所の問題があるだらふと思ふのであります、非常に遠い所の歴史的の民族の性質に凝り固まつたる事情から起つて来るやうな問題もありませうし、卑近なる所の問題もありませう、例へば今日迄中國が領土の保全を爲し得たのは日本が強い力を有つて茲に立つて居ると云ふことが一つの大きいなる原因になつて來て居る譯であります、此點を中國の人でも感銘して居る人も比較的少くないか知れませぬが、是は忘れてはならぬことと思ひます、斯く日本の中國に對する恩恵も尠からぬのであります、併ながら日本の方に於きましては過去三十年のことを顧みますると、吾々に於て餘程考へ直さなければならぬことが随分多いやうに思ふのであります、只私は此際に於きまして一つ申上げたいのであります、それは何であるかと云ふと、日清戰爭に日本が勝ちました、さうして支那からは尊敬の念を以て迎へられたのであります、其後に於きまして或は日本の教育家が多數支那に參られ、又日露戰爭後に於きましては一萬以上の留學生が支那から東京に來られた、斯う云ふやうな狀況でありました、日本は支那を叩いた、個人に例を取りますれば友達同志に於きましても喧嘩しなければ仲直りが出來ぬと云ふやうな事情であつた、そうして日本が非常に勝つたに拘らず、支那から同情の念を以て迎へられたのであります、然るに明治四十年以來反對の調子になつて參りました、それからして世界大戰以來益々惡くなつた、大正十四年から昭和二年春迄は幸にしてよかつたが、他は全部いけないのであります、是はどこに原因が

あるかと云ふと、私共の考へます所に依りますと、日清戦争と云ふもの、日露戦争と云ふものは、日本は叩かざるべからざる理由あつて、國運を賭してまで全力を盡して戦かつたのであります、其間に穢らはしい感じは少しも無い、日本の生存の爲め此純眞の態度は戦争に敗けた中國の人にも感銘したことと思ひます、其結果反對に尊敬の念となつて現はれて居るかと思ひます、所が日露戦争に勝つた後に於て、日本人の心持に果して緊張味が従前通りであつたかどうか、日本人は其後に於て大いなる理想を持つて居るかどうか、臥薪嘗膽の聲は消えて之に代るべきものを持つて居るかどうか世界大戦に於て非常なる所の都合の好い地位に居つた爲めに、思はざる物質に恵まれた時に、吾々日本人が果して自制心のある人間としての行動に出たものであるが、此日本人がさう云ふ場合に於きまして、稍々弛みが出来て居りはせぬか、日本人が眞面目で反省的でないが故に、外國人間に日本人は金を樂に儲けて、面憎いとかイロ／＼なる感情が生じたのであるまいか、即ち要約すれば日本人の態度は日露戦争以後純眞の點に於て遺憾が生じた、日清戦後勝つて尊敬を得、日露戦後より現時に至るまで排日を招くといふ相違を見るといふのは全く態度の純眞と否とが大いなる原因でなからうかと思ひます、是は特に皆さんの御考慮を煩はしたいやうな次第であります、人間は眞面目で居りますれば、假令非禮を致しましても人は或る程度の同情をするものであります、そこで日露戦後日本人の態度に純眞な所が缺如することになり従つて策に次ぐに策を以つてするといふ傾向を持來しました、これは日本の外交に徴しても明らかなやうに思はれます、ところが策略に於きましては日本人よりも中國の方が一段上手であります、春秋戰國以來百戰練磨の中國であります、そこで策略を第二とし、純眞の態度を以て臨むことが國家としても個人においても實際の基調とならなければなりません、論語の中に孔子の言はれましたる報怨以直といふ言葉は尊き千古の訓言と思ひます、直を以て立ち、直を以て進むといふやうに中國人に要求すると同時に、日本人もこの言葉の意味を味ひ立派なる行動にいで中國人からして模範的行動として日本の紳士、日本の學生、日本の政治家の態度を見よと言はれるやうになりたいも

のと思ひます。

次に一つのエピソードを申し上げますが或る時日本の學生十數名の訪問を受けました時、その中の二三人は「人類に盡せばよい、世界の進運に貢獻すればよい、國家は寧ろ第二である」といふ謬見を以て居らるゝことを知りまして、「それは根本的の謬見である、國家の背景により若くは國家の力を通ぜざれば、現代において世界に向つて貢獻も何等成し得ざることは上海の實狀が最も明かに證明して居るのであります、上海に露西亞人が幾千居りまして何等重きをなさぬではないか、ポルトガル人が三千人から居るけれども徒らに三百年前の偉大を胸に描くのみで他の外國人は更に齒牙にかけないではないか、日本人が行政上に發言權を得たのは世界大戰に参加の結果であり、日本の國の威力が間接的に上海に響いたためではないか、亞米利加人が儘かに三千五百の人口を有するのみに拘はらず二名の行政委員を出してゐるといふのは英米自から血は水よりも濃いといふ關係もありませうけれども根本は米本國の國威經濟力が旺盛のためではないが、本國の存在は遠くとも直接間接に又輿々の中に上海にまでも響くのである、そこで我々日本人も矢張り國家に向つて全力を注ぎ、國の繁榮を招致し、その國家の力を通じ若くは國家の背景によるに非ざれば世界に向つても大いなる貢獻を成し得ざること」を力説いたしましたところ、立所に上海の現實を把握して右の學生諸氏は翻然と從來の謬見を打捨て、私も大いに愉快に感じました。

以上いろ／＼と順序もなく思ひ出づるまゝに上海の社會狀態を臚るげながらも皆様の心裡に映さうと思ひまして申し上げましたが、阿片戰爭以來約九十年の間に於きまして上海といふ世界においても一種特別なる都會がどういふ歴史を辿つて、今日の行政組織となつたか又行政の實際の運用を研究することも趣味と利益の渺なからざること信ずるのであります。